

新潟港と新潟校

校長 吉田 隆

明けましておめでとございます。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

二〇一九年一月一日に新潟港は開港百五十周年を迎えました。新潟市にとって記念すべき節目の年であり、新たな新潟の未来を切り拓くスタートの年とも言えるでしょう。

もう一つの「にいがたこう」である我ら新潟小学校は、新潟港の開港から約四年後の明治六年三月に「私立第三小区学校」として西堀十番町の真宗寺に開校しました。そして、明治十四年に「新潟町校」、明治十七年には「新潟校」と改称され、長らく「にいがたこう」という名称で呼ばれてきました。さて、新潟校が新潟港と深いかわりがあることはご存じでしょうか。まず一つは校章です。明治四年に開港五港の一つとなった新潟港を象徴した「五」の文字を凶案化したものを中心にデザインされています。これは新潟市章が定められた明治四十一年三月四日以後、その市章に新潟の文字を入れたものとされています。(校章制定から百年以上経過しているようですが、正確な期日は不明です)

さらに新潟港との、かわりが深いものとして新潟校の校旗があります。正確には大畑校との統合前の校旗ですが、校旗中央の「新潟」の文字は、かの東郷平八郎元帥の揮毫(きごう)です。



明治三十九年、東伏見宮殿下が新潟港に寄港された際、お迎えに来られた東郷元帥に、当時の八木新潟市長が新潟校の校旗の文字を書いてくださるようお願いし、出来上がった校旗です。

現在は校歴室に展示され、使用されることはありませんが、東郷元帥の文字は、この学校便りの題字として、しっかりと引き継がれています。

新潟校は、新潟港・新潟市の発展と共に歩んできたと言っても過言ではありません。我ら新潟校も、四年後に迫る創立百五十周年に向け、新潟の教育実践をリードする志を一層高く持って、未来へ羽ばたいて行きます。

